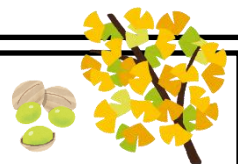


放射線科だより



令和6年10月25日
診療放射線科 渡辺 隆司

《ベーカー嚢腫 (ベーカーのうほう しつかのうほう)》

・ ベーカー嚢腫 (ベーカーのうしゅ) とは？

ベーカー嚢腫とは、膝の裏側にある滑液包に水が溜まり大きく腫れる病気です。

膝・股関節・肩といった関節部分は骨や筋肉・腱・皮膚等が絡み合いとても複雑な構造となっています。

滑液包は関節を動かす際、これらの組織がこすれ合わないようクッションや摩擦の軽減といった働きをしています。滑液とよばれる液体を包んだ袋状の構造で、組織と組織の間に存在し、一部は関節腔と交通しています。

ベーカー嚢腫をひき起こす滑液包は膝の裏側 (膝窩) に位置する半膜様筋と腓腹筋の間

にあり、膝の関節腔と細い管でつながっています。膝の関節に炎症が起こると関節腔内で関節液が多量に分泌され、過剰となった関節液が膝窩の滑液包へと押し出され (滑液と関節液は同じ成分でできています) 徐々に溜まっていきます。大きなものではゴルフボール大となり、膝の裏側がぽっこり腫れてきます。

このことを初めに報告した人物の名前から、ベーカー嚢腫と呼ばれています。

・ ベーカー嚢腫の原因・症状

膝の関節炎が起因となるので、**変形性膝関節症やリウマチ・痛風など膝の炎症疾患を患っている人に好発**します。その他にも激しいスポーツや仕事、過度の肥満などで膝を酷使している人にも見られます。小児にもできる場合がありますが、この場合は体格に合わないイス等による膝窩への直接刺激が原因の滑液包自体の炎症によるものがほとんどです。

症状としては、**サイズが小さいうちは膝の違和感や不快感、大きくなるにつれ運動障害や神経・血管が圧迫されることによる痛みや痺れ**などを引き起こします。また、過度な力がかかると破裂することもあります。

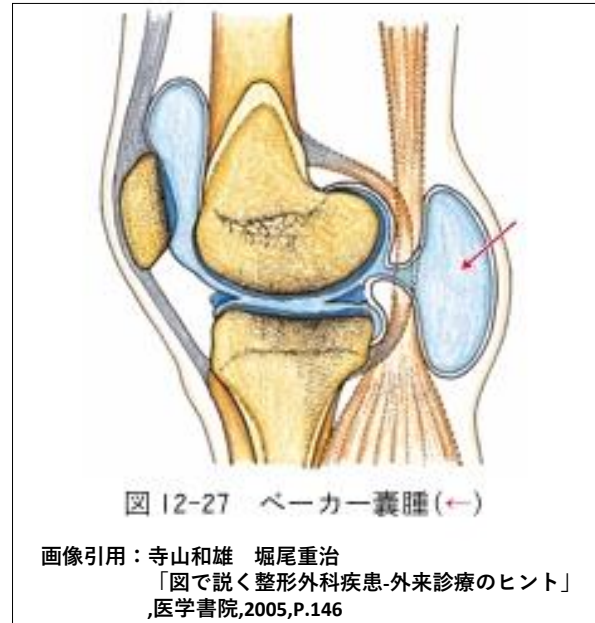


図 12-27 ベーカー嚢腫 (←)

画像引用：寺山和雄 堀尾重治
「図で説く整形外科疾患-外来診療のヒント」
,医学書院,2005,P.146

・ ベーカー嚢腫の診断・治療

診断は医師による視診・触診で嚢腫の有無を確認後、サイズや位置を特定するために画像検査を行います。検査には主にMRIが用いられます。MRIではサイズ・位置の他にも内部の組成がわかるので、脂肪腫や悪性の腫瘍といった他の疾患との鑑別や、根本原因である膝の状態といったことも調べることが可能です。

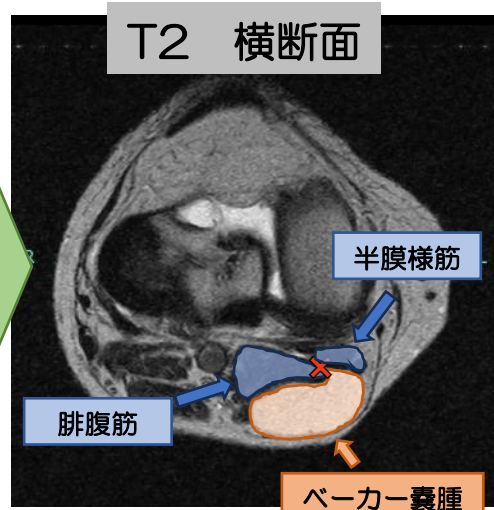
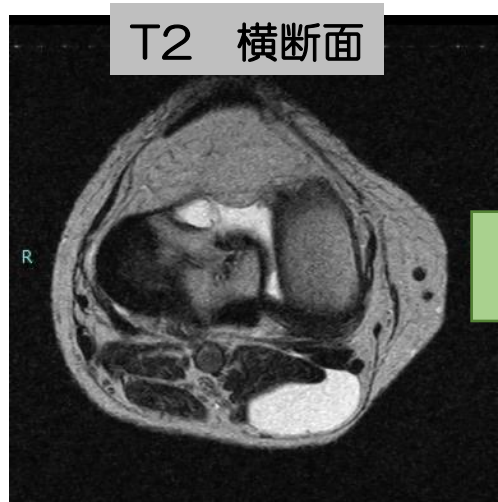
ベーカー嚢腫自体は良性的疾患なので生活に支障がない場合は特に治療の必要はないとされています。原因となる膝の炎症を抑えることで、進行を防ぎ、自然に吸収されるのを待ちます。痛みや痺れ、動きに影響が出ている場合は注射による投薬や滑液の吸引といった治療を行います。治療を行っても改善しない、何度もくり返す場合には手術により嚢腫を摘出しますが、完全に取り除くのは難しいとされています。

・ ベーカー嚢腫のMRI画像（右膝関節）



ベーカー嚢腫の成分はほとんどが水分なので

- ・ T2画像では白く
- ・ T1画像では黒く描出されます。



腓腹筋と半膜様筋の間にある滑液包✕が膝の裏側に拡張して押し出されベーカー嚢腫を形成しています。

✕は本来の滑液包の位置になります。

・ 気になる症状がございましたらお気軽にご相談ください。